

地域の活力を創造する研究・研修を紹介します

集落営農法人における後継者の育成支援について

山口県では、平成25年12月現在、192の集落営農法人が設立されています。しかし、その構成員の多くを高齢者が占めており、経営安定に向けた生産体制の強化をはじめ、法人経営の持続的発展に向けた後継者の確保・育成や将来を託せる後継者への経営継承が課題となっています。

経営技術研究室では、円滑な経営継承や集落営農法人の持続的発展等を図るため、各法人の後継者確保の実態や育成上の課題、行政支援の進め方、継承方策の提示等に向けた研究を進めています。

その中で、法人代表者と後継者を対象として行ったアンケート調査から、後継者が望む就業条件と法人側の労務環境との間に乖離（かいり）が生じていることや、法人に就業した後継者の人間関係づくりの難しさ（特に、若い後継者同士の連携・関係づくり）、法人間連携による後継者育成の必要性等を明らかにしました。

これらの研究成果から、今年度、若い法人就業者同士のネットワーク形成と将来の地域農業を担う経営者としての意識や資質向上等を目的として、若手法人就業者サークル「百姓練磨の会」の立上げ支援を行い、「相談相手がない」、「孤立感がある」等の調査結果からみえてきた課題解決にも対応してきました。

今後とも、集落営農法人における後継者確保・育成をはじめ、研究で得られた成果等を迅速に提供できるよう、山口県集落営農法人連携協議会やJA山口中央会等と連携した研究を進めていくこととしています。



写真：4県集落営農法人サミットで講演する仁多会長（百姓練磨の会）

<主な内容>

『集落営農法人における後継者の育成支援について』

～本部経営技術研究室～

◇各部の取り組み

- 『鳥獣被害防止対策アドバイザーを養成中』
- 『小麦新品種「せときらら」が奨励品種に決定！』
- 『葉色の濃い夏用小ネギが誕生！』
- 『ユリ新品種について』
- 『林業作業就業前研修について』
- 『やまぐち就農支援塾の研修について』

- ～本部経営技術研究室～
- ～農業技術部土地利用作物研究室～
- ～農業技術部園芸作物研究室～
- ～農業技術部花き振興センター～
- ～林業技術部林業研修室～
- ～農業研修部（農業大学校）～

鳥獣被害防止対策アドバイザーを養成中

鳥獣被害対策は、それぞれの獣種に応じた対応を行うことが一般的でしたが、サルやシカ等の分布域が拡大し、これまでイノシシの被害しか発生していなかった地域でも、複合獣種に対応した取組が必要となってきています。また、被害農家個々の対応では、その対応に限界があり、地域ぐるみでの取組や市町域を超えた取組も必要となってきます。

こうした背景等を踏まえ、平成25年度から、新たに「鳥獣被害防止対策アドバイザー養成研修」を実施し、個別に対応してきた各種鳥獣被害対策研修を4日間の総合的な研修に再編して、地域における対応力の向上を図ることとしております。

今年度は、市町、JA等の関係機関・団体から33名の参加をいただき、鳥獣被害対策関係法令、被害実態と対策、獣種ごとの生態や防除対策等の基礎的な知識に加えて、防護柵の作成実習や追払い実習、集落環境調査、取組事例調査等体系だった知識を習得してもらいました。こうした職場や業務を超えた研修への参加を契機として、被害実態に応じた適切な対応や関係者の情報交換が進み、鳥獣被害軽減への取組強化が期待されます。



鳥獣被害の概要講義



防護柵の作成実習

小麦新品種「せときらら」が奨励品種に決定！

小麦「せときらら」は「ニシノカオリ」の後継品種として選定を進めてきた新しい品種です。土地利用作物研究室では、平成22年度（23年産）から奨励品種決定調査に供試し、品種の特性を調査してきました。平成25年産には、県内数ヶ所で大規模実証調査を行い、現地での適性を検討しました。その結果を踏まえ、奨励品種審査会で、栽培適性、加工適性とともによれると評価され、平成25年10月17日に新たな奨励品種に決定しました。



奨励品種審査会（立毛審査）



新奨励品種「せときらら」

「せときらら」は製パン適性を高める3つの遺伝子を持っているため、製パン性の向上が期待できます。ただし、「せときらら」の持つ製パン性を十分に発揮させるには、子実タンパクの向上が必要です。そのため、現在、土地利用作物研究室では、子実タンパクを向上させる施肥方法について検討しています。



奨励品種審査会での試食の様子

葉色の濃い夏用小ネギが誕生！

夏期の小ネギ栽培は、高温のために生産が不安定なことに加え、葉色が濃く、品質の優れる品種がありませんでした。そこで、農林総合技術センターでは、下関市安岡地区の在来ネギ集団を育種素材として収集し、現地の生産者やJAとともに、夏用小ネギの共同育種に取り組みました。この共同育種にあたっては、農林総合技術センターが交配、育成系統の調査・データ解析を担当し、生産者はその育成系統の栽培を担当しました。また、育成系統の選抜は、農林総合技術センターと生産者およびJAの関係者で行いました。

関係者全員が納得できる系統を選抜した結果、葉色が極めて濃く、葉が真っ直ぐで草姿が美しく、暑さにも強い夏用小ネギが誕生しました。この小ネギは「YSG1号（Yamaguchi Summer Green onion 1号の略）」と名付けて、2012年2月20日に品種登録出願公表されています。採種ができ次第、JA下関が種子を販売することとしており、夏の高品質なネギ生産が期待されています。



ユリ新品種について

花が小さく、フラワーアレンジメント等にも使いやすい、やまぐちオリジナルユリ「プチシリーズ」に、新たに3品種が加わることとなりました。

新たな3品種は、花色がレモン色で美しい「プチセレネ」、白色と濃ピンク色で今までにない複色系の「プチリアン」、オフホワイト色で花の小さい「プチアンジェ」です。名称は花き生産者やJA・花市場の担当者、やまぐちフラワーランドの一般来園者の皆様によるアンケートによって決定され、平成25年11月に品種登録出願をしました。

現在、産地化推進品種決定審査会において、現地での切り花栽培試験（県内2カ所）および球根増殖試験（同2カ所）を実施中であり、12月から試験出荷も開始されています。

これら試験結果を踏まえ、平成26年度に産地化推進品種決定審査会を開催予定であり、産地化推進品種の決定および、同年秋季からの球根供給を目指しています。



プチセレネ
レモン色

花色
花径
特徴

11cm程度
葉色濃く光沢有り
花弁が厚い



プチリアン
白色+濃ピンク色

13cm程度(やや大きい)
高温期ピンク色が薄色化
低温期は逆に濃色化



プチアンジェ
オフホワイト色

10cm程度(小さい)
花が段咲きに着花
花粉が黄色

林業作業就業前研修について

木材価格の長期低迷や林業従事者の高齢化など、林業を取り巻く情勢は依然として厳しいものがありますが、新たに働く場を求めて森林組合などの林業事業体へ就業を希望する人たちが増加しています。

林業技術部では、これらの新規就業希望者が円滑に就業できるよう、安全に木を切り倒す方法や下草刈りの方法など、林業に欠かせない基本的な知識・技能を身につける「林業作業就業前研修」を実施しています。

平成25年度は、5月と10月の2回実施し、合計31名の研修生に「伐木等の業務に係る特別教育」及び「刈払作業に係る安全衛生教育」の資格修了証を交付しました。

林業の現場は経験が不可欠であり、今後研修生がそれぞれの地域に定着し、間伐などの森林整備推進の一翼を担って活躍されることを期待しています。



やまぐち就農支援塾の研修について ～農業研修部（山口県立農業大学校）の取り組み～

農業研修部では、学生教育部門とともに社会人研修を中心とした「やまぐち就農支援塾」を設置し、各種研修を実施しています。

このうち新規就農や法人就業を支援する研修では、①初心者対象の体験を中心とした「短期入門研修（平日5日間）」、②休日開講し農業経営を目指す「作目基礎研修（年15回）」、③1年を通じて本格的な就農・就業を目指す「担い手養成研修（給付金制度活用の可能性あり）」を作目毎に設け、担い手の育成に取り組んでいます。

就農相談に加えて、幅広いニーズに沿った研修カリキュラムを整備していますので、お問い合わせください。



短期入門研修の実習（野菜）風景

25年度の研修開催状況

（H25年11月末現在）

研修名	受講者数	研修内容
短期入門研修 （第1回、第2回）	42名	園芸や畜産に関する農作業体験、基礎的な講義
作目基礎研修	66名	野菜、花き、果樹、肉用牛の基礎知識の講義及び栽培・飼養管理実習
担い手養成研修	15名	専門的な技術・知識の講義及び実習、農家研修（約1年間）



担い手養成研修（花き）の実習風景

【お問合せ先】

やまぐち就農支援塾（県農林総合技術センター農業研修部）
TEL (0835) 38-0510

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-7011 FAX(083)927-4386

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。